

## ベンサム Bentham, Jeremy 1748 ~ 1832

功利主義哲学を体系化したイギリス最大の社会哲学者。ロンドンの弁護士の子として生まれ、1760年、わずか12歳でオックスフォード大学入学、1772年には弁護士の資格を取得した。

彼は当時のイギリス司法の混乱を正そうと『政治論断片』(1776)を、当初匿名で出版した。これは曖昧で恣意性のある自然法論に基づくブラックストンの立法理論を、合理的な「功利の原理」に基づいて批判したもので、ヒュームの『人性論』(1739)、エルヴェシウスの『精神論』(1758)、「最大多数の最大幸福」の語を発見したブリストリーの『政府論随想』(1768)等から着想を得たとされる。彼は『道徳および立法の諸原理序説』(1789)で、この功利の原理を立法の分野に適用した。ベンサムの功利主義は、倫理思想であるだけでなく、社会思想としても展開し、19世紀のイギリス、そしてヨーロッパ全体に大きな影響を与えた。

### **Great Books 34** 道徳および立法の諸原理序説 (Introduction to the Principles of Morals and Legislation)

本書は、刑法典の懸賞論文に応募するため書き始めたもので、応募しなかったものの1780年に完成、1789年に注をつけて公刊したものである。日本では明治11年(1878)、陸奥宗光により『利学正宗』の名で翻訳された。前半は功利主義の道徳哲学に詳しく、快楽、苦痛、動機および気質という言葉の意味する包括的な諸理念を分析し、後半は望ましい法律のあり方を、主に刑法典について論じている。

本書の柱は、功利の原理(後に「最大幸福の原理」)である。功利の原理とは、ある行為によって人がより幸福になれば、その行為はよいと認められ、その逆は否認される原理である。ベンサムは、幸福即ち快楽は計測でき、社会の幸福を一方で減少させるような行為でも、全体として幸福が増大するならば、その行為は功利の原理に適合するとした。また、全ての法律の目的は、社会の幸福を増大させ害悪を除去することにあるのだし、刑罰自体は害悪であるものの、社会の幸福を増大させる限りにおいては認められるとした。そして楽観的な人間観を立法論の基礎として持っていたベンサムは、他人に危害を加えるような行動だけを法律で規制し、それ以外の行動は道徳に任せるべきだと考えた。

## ミル Mill, John Stuart 1806 ~ 1873

イギリスの哲学者、経済学者。ベンサムの弟子で主知主義の父J.ミルの教育方針から、幼い頃より数学、歴史、経済学を学んだ。17歳で東インド商会に入り、勤めながら執筆活動を行った。鬱病やベンサム・父の死をきっかけに、革命的にではなく、自由主義の原理に立ちながら平和的に、工業化・民主化を目指し、英社会の民主化に多大な影響を与えた。主著は『論理学体系』(1843)『経済学原理』(1848)『自由論』(1854執筆 1859出版)『代議政治論』(1861)『功利主義論』(1861雑誌発表 1863出版)等で、古典派経済学の完成者、イギリス社会主義の父、帰納法の完成者等とされている。

### **Great Books 35** 功利主義論(Utilitarianism)

本書は、1861年Fraser's Magazine(保守党系文芸雑誌)に分載した論文を1863年刊行したもので、全体は5章からなる。日本では、西周により明治10年(1877)『弥耳氏利学』として翻訳された。ミルは『ベンサム論』(1838)において、功利主義は社会の物質的利益を保護するが精神的利益にはならないとして批判的であったが、本書では功利の原理が道徳の根本原理であり道徳的義務の根源であるとして、再び功利主義の擁護にまわった。しかし、幸福の定義はベンサムと同じであるものの、「満足した豚であるより、不満足な人間であるほうがよく、満足した馬鹿であるより不満足なソクラテスであるほうがよい。」(第2章)という有名な言葉が示すように、ミルは快楽の質の優劣を認めてその快楽の満足度を無視しており、これはベンサムの快楽計算論が質的側面を見落としていることへの指摘であった。その他、ベンサムが人々を道徳の原理に従わせる誘因として世論や法律など外部的な制裁を挙げたのに対し、ミルは良心の声という内部的な制裁を最も強調するなどした。彼は、ベンサム、父J.ミル以来の功利主義の新転換を試みたのである。

## ◆ *Great Books* 文献案内

(ベンサム)

- 📖 世界大思想全集 社会・宗教・科学思想篇 第7巻 / 堀秀彦(ほか訳)  
河出書房新社 1955年刊 390p <080/3/2-7> 資料番号 10134435  
\*原著前半の道德に関する部分のみ訳出されている。
- 📖 世界大思想全集 第1期 24 / 田制佐重, 高橋久則(訳)  
春秋社 1928年刊 600p <080/1/1-24> 資料番号 10132678

(ミル)

- 📖 世界思想教養全集6 イギリスの近代政治思想 / 水田洋(ほか訳)  
河出書房新社 1964年刊 413p <080/6/6> 資料番号 10134849
- 📖 ミル功利主義 / 和田聖嗣(訳)  
福村書店 1954年刊 201p <331.3/39> 資料番号 10806677
- 📖 功利論(春秋社思想選書) / 柳田泉(訳)  
春秋社 1949年刊 140p <331.3/151> 資料番号 10808269

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

(ベンサム)

- 📖 民事および刑事立法論 / J. ベンサム(著) E. デュモン(編) 長谷川正安(訳)  
勁草書房 1998年刊 855p <321GG/234> 資料番号 21052063
- 📖 ベンサム『憲法典』の構想 / 西尾孝司(著)  
木鐸社 1994年刊 355, 7p <133.4DD/111> 資料番号 20772406
- 📖 ベンサムとコウルリッジ / J. S. ミル(著) 松本啓(訳)  
みすず書房 1990年刊 239p <133.4Y/101> 資料番号 20252433
- 📖 人類の知的遺産44 ベンサム / 永井義雄(著)  
講談社 1982年刊 383, 5p <280.8K/13/44> 資料番号 10497485
- 📖 テレマックの冒険 上・下(古典文庫) / フェヌロン(著) 朝倉剛(訳)  
現代思潮社 1969年刊 <F5/F9-1/1~2> 資料番号 12241774, 12241782
- 📖 世界の名著27 ロック ヒュウム / 大槻春彦(編)  
中央公論社 1968年刊 574p <080/5/27> 資料番号 21425897
- 📖 犯罪と刑罰 改訳版(岩波文庫) / ベッカリ - ア(著) 風早八十二, 風早二葉(共訳)  
岩波書店 1959年刊 215p <I32/^A> 資料番号 12255733

(ミル)

- 📖 J. S. ミル(イギリス思想叢書) / 小泉仰(著)  
研究社出版 1997年刊 278p <133.4FF/113> 資料番号 20968707  
\*年譜、参考文献あり
- 📖 自由論 / J. S. ミル(著) 塩尻公明, 木村健康(共訳)  
岩波書店 1971年刊 288p <I133/ミ> 資料番号 12250007
- 📖 ミル自伝(岩波文庫) / ジョン・スチュア - ト・ミル(著) 朱牟田夏雄(訳)  
岩波書店 1960年刊 299p <I28/ミA> 資料番号 12254686
- 📖 経済学原理1~5(岩波文庫) / J. S. ミル(著) 末永茂喜(訳)  
岩波書店 1959~1963年刊 <I33/ミ/1~5>
- 📖 論理学体系1~6 / J. S. ミル(著) 大関将一(ほか訳)  
春秋社 1949~1959年刊 <116/4/1~6>